

念願の海外公演へ



初の海外公演に向け練習に励む北海道農民管弦楽団（札幌市で）

デンマークで交流

国内唯一で世界的にも珍しい農家によるオーケストラ・北海道農民管弦楽団が念願の海外公演を実現させる。来年2月に60人規模でデンマークに渡り、現地の大地のハーモニーを響かせる。農学校での音楽教室や農家との交流なども予定している。

（新井博基）

同楽団は、宮沢賢治に共感し余市町で有機農業に取り組み農家、牧野時夫さん（48）が設立を構想。1995年に発足した。道内の農家やJA職員、公務員、農業系大学の学生など農業に関わるアマチュア音楽家約70人で活動している。農閑期の冬に練習を積み、年に1度公演してきた。

一行は2月10日に出発。13日にシルケボー市で現地のアマチュア室内管弦楽団と合同演奏会を開く。牧野さんが作曲した、和太鼓などを取り入れた「北海道奇想曲」も披露する。滞在中にカーク有機農業学校で音楽教室を開くなど、音楽を通

北海道農民管弦楽団

地の音楽家や農家に、このオーケストラにデンマークから学んだものが深くかかわっている歴史を知ってもらいたい」と抱負を語る。

下川町で施設園芸や畑作を経営する農家、佐藤導謙さん（42）は、初公演からトランペットで参加している。「数年前から海外で演奏したいと語り合っていたが、実現するとは」と喜ぶとともに、「畜産が盛んなデンマーク農業を見て、地元を持ち帰りたい」と、農業にも生かしたい考えだ。来年1月30日には、渡欧前のプレ公演として江別市の江別市民会館で第17回定期演奏会を開く。問い合わせは牧野さん、☎0135(62)7431。

室を開くなど、音楽を通して交流する。デンマークでの公演は、農業を通じた交流が後押しとなった。同国酪農を北海道に導入することを目指して1933（昭和8）年に開校した北海道酪農義塾が起源の酪農学園大の関係者が尽力。同大大学院の専任教授でデンマークのオーフス大で教壇に立つ高井久光氏が仲立ちした。

大正時代に宮沢賢治が農民芸術について講義した岩手国民高等学校は、同国の農村での社会教育を模範としたという縁もある。指揮とバイオリンを務める牧野さんは「現